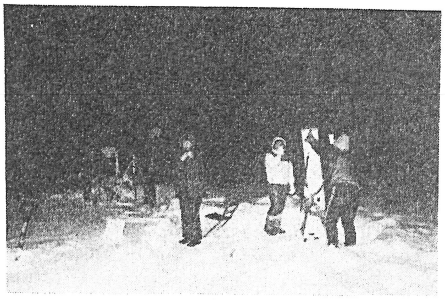
1983年10月９日　水が飲めるぞ！

とりあえず生活に必要な電気、水の工事が優先となった。水源地の近くの場所を観測所に選んだので、深さ６～７ｍで豊富な水が得られた。

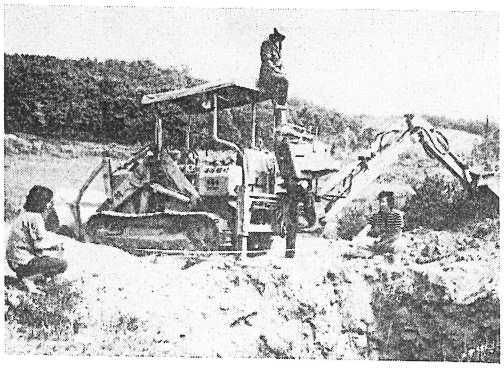
水はきれいかな？
水質検査をする市村義美さん



1984年１月28日　厳寒期観測会
この時始めて真冬の「いわき」を体験した人も多かった。外は一面の雪、しかし－10°Ｃの中での星空はすばらしかった。

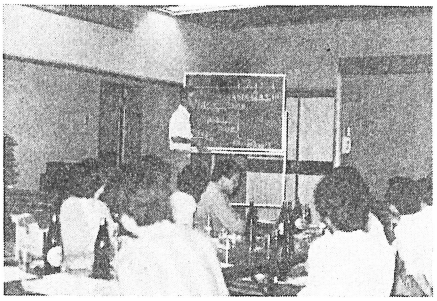
明け方近くにはほとんど皆ぐったり。コタツに足を入れての「タコ足コタツフトン」で眠った。

一夜明けてといっても昼過ぎだが昨夜の観測会に大満足。それにしても左端の田中政明さんの髪の毛の立ち上がり方はすごい！



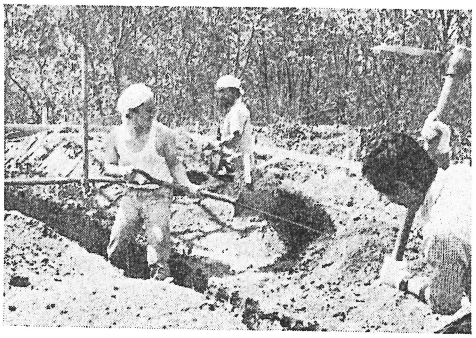
1984年、秋　基礎用穴掘り
　観測所付近はガチガチの岩盤でとてもツルハシ程度では歯が立たなかった。そこでコンクリートピラー用の基礎穴はショベルで掘ってもらった。

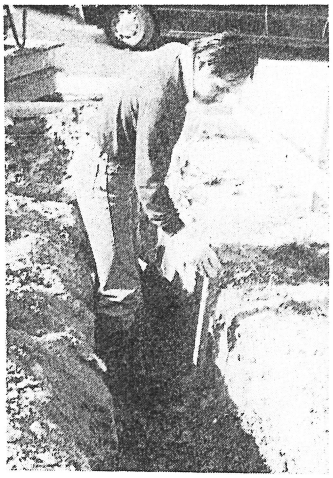
　縦５ｍ×横３ｍ×深さ２ｍのこの穴にコンクリートを流し込み、２本のピラーのベースとする予定。



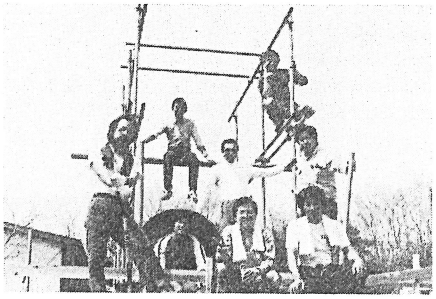
都内での打ち合わせ会
　観測所建設や機材の設計などについて月に１回は会合を開き打ち合わせを行った。写真は代々木八幡区民会館でのもの。

1985年４月20日　基礎工事開始
　予算不足のため基礎工事はすべてメンバーの手で行うことにした。慣れない事は非常に疲れます。
　だいぶ進んだが、まだまだ大変
左より西村一二さん、米沢正博さん、斉藤勉さん。

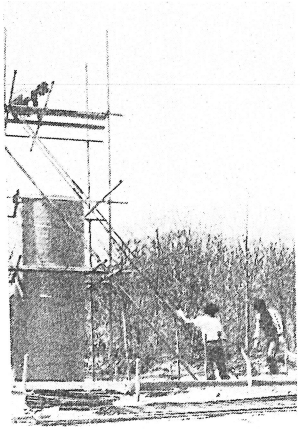




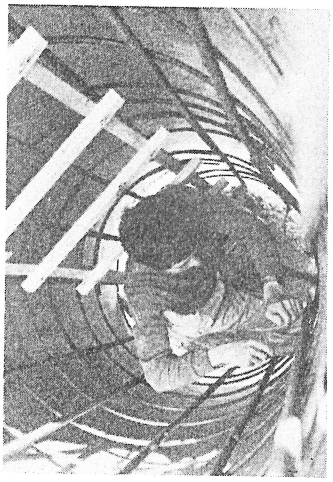
　水糸からの高さはどうかな？とチエックする古田基さん。



足場も組み終わり、ようやく本日の工事が終了、お疲れさま。

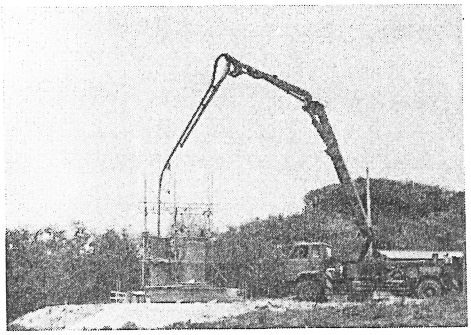


望遠鏡を載せるコンクリートピラーを作るため円筒型枠を設置、その中に鉄筋を配筋する。

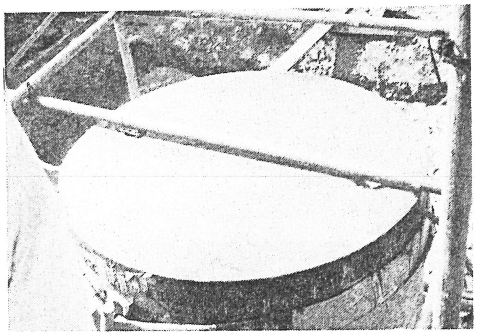


ピラーの高さは４ｍもあるので中に入って配筋するのも命がけの作業だ。

ピラーとベースとの接続は特に注意して配筋する必要がある。雨の中で作業中の米沢正博さん。

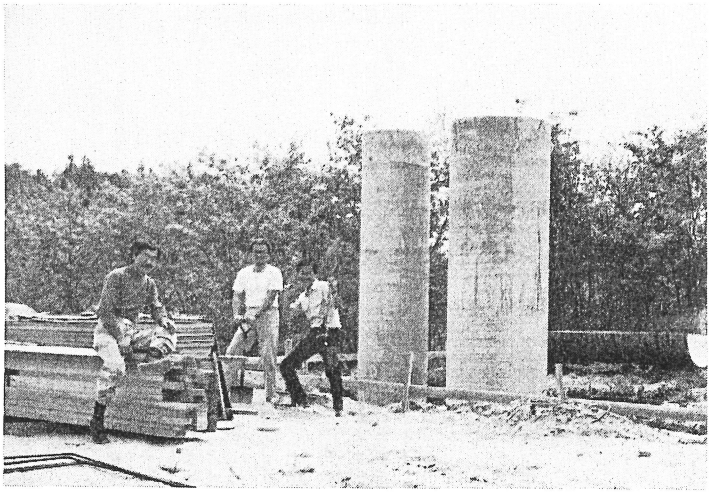


いよいよコンクリート打ち込み。ポンプ車でドッドッドッとコンクリートを流し込む。



コンクリートピラー上面は2階の床と同じ高さになる。コテ仕上げは特に念入りに何回も行う。

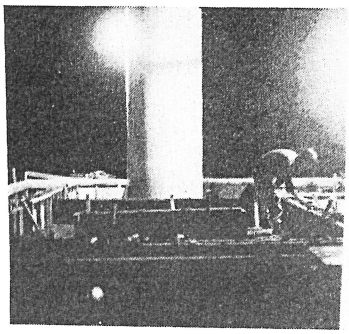
コンクリートが固まった1週間後に型枠をはずす作業を行う。



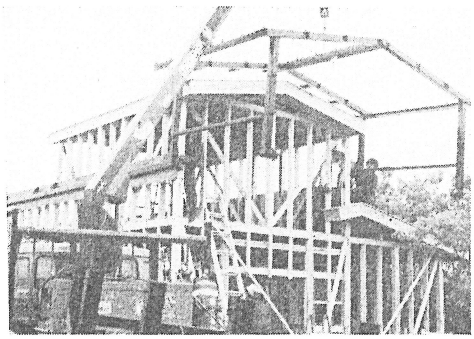
やったね！コンクリートピラー完成！！左より田中政明さん、新妻宏茲さん、斉藤勉さん。

1985年6月1日、建物基礎工事
いよいよ居住空間用の基礎工事がはじまった。型枠を組上げるのも大変な作業。

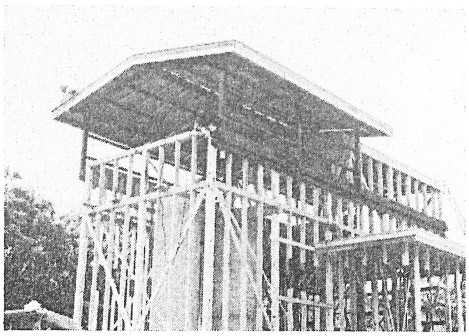
寸法を間違えないようにしないと大変。「まかせてよ」と西村一 二さん。



コンクリートの打ち込みが遅くなってしまい、コテならしは深夜までかかってしまった。真夜中の作業をする田中政明さん。



いよいよ躯体工事、木工事や鉄骨工事はプロにまかせた。写真はスライディングルーフ用の鉄骨を取り付けているところ。



巨大なコンクリートピラーも建物内に納まると小さく見える。